

表 1502 2016年中の腹膜炎発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明	記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,141 (83.8)	296 (11.6)	81 (3.2)	13 (0.5)	10 (0.4)	14 (0.5)	2,555 (100.0)		1,581	4,136	0.27	0.92
腹膜透析 (APD) (%)	1,232 (87.5)	122 (8.7)	35 (2.5)	11 (0.8)	2 (0.1)	6 (0.4)	1,408 (100.0)		710	2,118	0.22	0.88
腹膜透析 (CCPD) (%)	392 (88.5)	42 (9.5)	5 (1.1)	1 (0.2)	2 (0.5)	1 (0.2)	443 (100.0)		234	677	0.16	0.55
合計 (%)	3,765 (85.5)	460 (10.4)	121 (2.7)	25 (0.6)	14 (0.3)	21 (0.5)	4,406 (100.0)		2,525	6,931	0.24	0.87
記載なし (%)												
総計 (%)	3,765 (85.5)	460 (10.4)	121 (2.7)	25 (0.6)	14 (0.3)	21 (0.5)	4,406 (100.0)		2,525	6,931	0.24	0.87

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する％です。

\*個々の患者の腹膜炎発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

\*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

##D5917##

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2016年調査